

西成区 87年度 110人

'87.12.7 ~ '88.3.13

	名前	年齢	性	遺留金品	発見日時
	不詳	50	男	現金210円、小銭入、タリ、白長袖シャツ	'87.12.17 AM 9:30
	"	40	"	印鑑、小銭入(鍵1個付)	12.29 AM 8:30
	"	50	"	現金1140円、腕時計	'88.1.6 PM 9:30
	"	40~50	"		1.12 AM 8:06
	"	55	"	現金3911円、腕時計、小銭入、ラジオ、鍵 イヤホン、広語小辞典、半袖シャツ	1.18 PM 7:35
	"	60~65	"	腕時計、長パン、茶色柄パンツ	1.19 AM 11:50
	"	40~50	"	現金 50円	1.20 AM 4:14
*	平野内 正男	73	"	現金763円、老人健康手帳、指輪、腕時計 小銭入	1.20 PM 9:35
	不詳	55~65	"		1.21 PM 12:55
	"	56	"		1.23 AM 6:45
	"	49	"	現金4005円、腕時計、財布、印鑑	1.24 AM 9:10
*	法花津実	59	"	現金1000円、貯金通帳、ベストパンツ	1.25 AM 7:40
	不詳	65	"	現金 55円、茶色皮製小銭入	1.25 AM 7:40
	"	55~60	"	現金9340円、鍵×2	1.27 AM 10:09
	"	45~50	"	現金740円、財布、鍵	2.3 AM 10:35
	"	41	"		2.4 AM 4:37
	"	45	"	現金15520円	2.7 PM 5:00
	"	55~60	"	現金 55円	2.9 AM 10:34
	"	50	"	現金360円、腕時計、財布(黒色キルト付)	2.9 PM 4:27
	"	55~60	女	現金40550円、腕時計、財布、お守り3個 印鑑、珠子2個	2.11 AM 9:35
	"	40~50	男	現金 270円、診察券	2.11 PM 9:24
	"	45	"		2.12 PM 9:25
	"	58	"	現金13200円、日産手帳、黒色皮製二折財布 日産健康保険票、お守り、鍵	2.14 AM 9:30
	"	45~50	"		2.17 AM 8:00
	"	50~55	"		2.29 AM 7:30
	"	54	"	現金8180円、印鑑、日産手帳	2.29 PM 4:55
	"	50~55	"		3.3 AM 7:51
	"	50~60	"		3.7 PM 5:55
	"	40~45	"	現金4030円	3.8 AM 11:05
*	江川武男	35	"		3.9 AM 6:20

行路死亡人

発見場所	死亡日時 (推定)	場所	死因	処置
萩之茶屋 1-11-15 鹿乗車内	'87-12-16 PM10:00	同上	心不全	検 視 解 剖 の う え 北 斎 場 に て 火 葬 に ふ す
" 1-11-15 先路上	12-29 AM 5:00	"	不詳(検索中)	
" 1-9-5 簡宿オツヤン	'88-1-6 PM 9:00	"	急性心機能不全	
" 3-5-19 先路上	1-12 AM 3:00	"	硬膜外出血	
" 1-4-16 簡宿未広	1-12	"	急性心不全	
太子 1-3-25 マルゲン前路上	1-19 AM 0:00	"	急性心不全	
萩之茶屋 1-2-5 理容所前路上	1-20 AM 3:00	"	心不全	
" 1-14-6 はきふね旅館	1-20 AM 0:00	"	肺炎	
" 1-14-24 南海新宮駅高架下	1-21 AM 0:00	"	凍死	
花園北 2-11-15 大和中央病院前	1-23 AM 5:00	"	凍死	
太子 2-1-3 ビンズホテル333号室	1-23 PM 8:00	"	くも膜下出血	
花園北 2-13-11 先路上	1-24 PM 11:00	"	不詳(検索中)	
" 2-17-23 神宮司酒店前	1-24 PM 8:00	"	"	
萩之茶屋 1-2-9 簡宿白山荘	1-23	"	心不全	
" 1-3-44 愛隣ビル1F	2-3 AM 10:00	"	凍死	
天下茶屋北 2-5-9 阪南温泉前路上	2-4 AM 4:30	"	不詳(検索中)	
萩之茶屋 2-1-13 先路上	2-7 AM 1:00	"	飛び降りによる失血	
" 1-2-9 先路上	2-9 AM 11:05	大和中央病院	肺炎	
" 1-3-44 愛隣ビル3F	2-9 PM 3:00	同上	肝硬変	
太子 1-1-12 簡宿中央	2-11 AM 0:00	"	胃潰瘍	
萩之茶屋 1-3-23 市庄西側路上	2-11 PM 9:07	"	胸腹部内臓損傷	
" 1-12-1 先路上	2-12 PM 8:00	"	凍死(疑)	
" 1-6-1 日光荘	2-12	"	肺結核	
" 2-4-2 西城警察署玄関軒下	2-17 AM 4:00	"	不詳(検索中)	
" 3-5-7 南浜高野線下	2-29 AM 6:00	"	凍死	
" 2-6-21 簡宿ホワイ	2-28 PM 4:00	"	脳出血	
" 1-3-44 愛隣ビル前路上	3-3 AM 7:00	"	失血	
" 1-3-44 愛隣ビル3F	3-6 AM 7:00	"	肝硬変	
北津守 1-5 阪神線加下先路上	3-8 AM 8:35	"	肺結核	
萩之茶屋 1-10-20 曙森村前路上	3-8 PM 10:00	"	不詳(検索中)	

天王寺区 87年度 10人

'87 12月 1人 自殺

'88 2月 1人 自殺

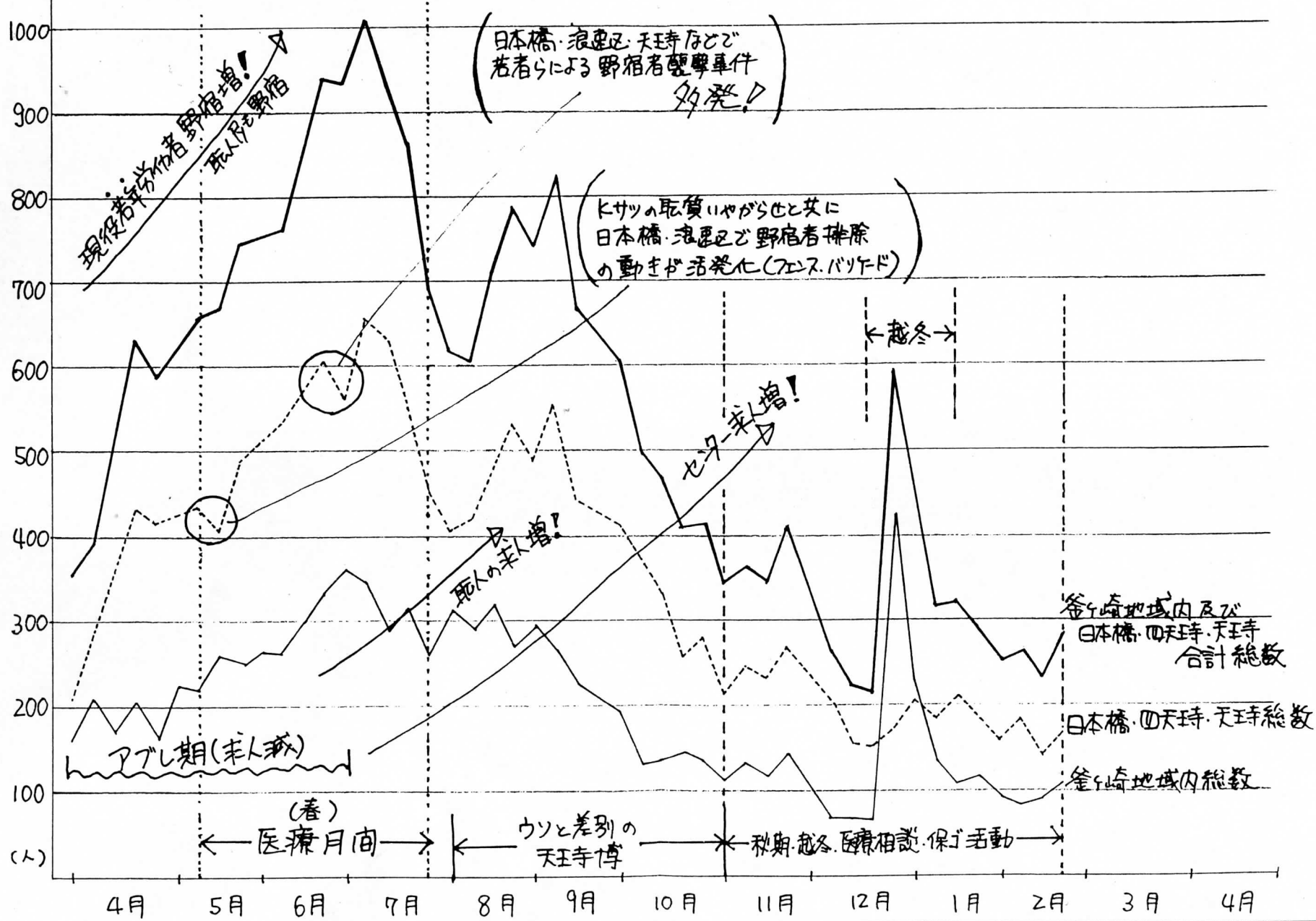
3月 1人 自殺

浪速区 87年度 8人

'88 2月 1人

3月 1人

'87年度 木曜 夜まわり状況





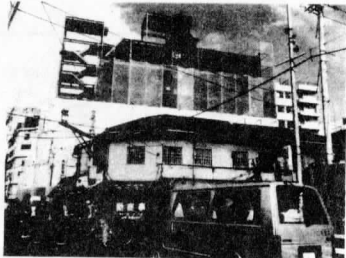
今年の活動目標

わたし達キリスト教協友会が、釜ヶ崎越冬支援活動をはじめ13回目の冬を迎えようとしています。

みなさまには、當日頃私達の小さな働きを支え、はげまして下さっていることに、心からお礼申し上げます。

釜ヶ崎では、ここ一、二年の間一万人近くもの労働者が増え、三万人になろうとしています。円高不況による鉄鋼造船をはじめとする不況産業の下請け労働者が「合理化」のもとに首を切られ、関西新空港や「花と緑の万博」などビッグプロジェクトをひかえて、釜ヶ崎に行けば仕事があると思われるからですが、労働者増は求人に比例せず仕事にあふれ、野宿を余儀なくされる労働者が急増しています。比較の仕事のよくなった10月15日さえ、釜ヶ崎地区内で138人、周辺（日本橋、天王寺、四天王寺）では335人も野宿者を木曜夜回りで確認しました。大半の人が高齢病弱労働者です。仕事にいきたくてもいけない状況に追いこまれていくのです。

協友会では、今年も「人を人として」とのテーマに取り組むことになりました。「人を人として」いない現実が、釜ヶ崎で、周辺であるからです。今も多発している少年、暴力団などによる日本橋辺での野宿者襲撃、町内会、行政当局が一体となり行っている「クリーン作戦」という野宿者追い出し……。そこには、差別と抑圧のあからさまな歴史と仕組みを見ようと思せず、無知と偏見によって釜ヶ崎をとらえ、日雇労働者を「物」のごとくいらなくなったら切りすてる社会構造があります。



ドヤの新築ラッシュが続く(手前が古いドヤ)

年間活動の一つに「大人と子どもが共に生きる」とあります。日雇労働者の街釜ヶ崎に生まれ育つ子どもは少なくありません。彼らも労働者と同じく、釜ヶ崎にむけられる様々な差別と偏見の中にあります。しかし子どもたちの中

協友会通信10
1987年12月

釜ヶ崎キリスト教協友会
代表 中島文雄

連絡先
大阪市西成区萩ノ茶屋2 8 9
旅路の里気付
釜ヶ崎キリスト教協友会
Tel 06 641 7183

カンパ送り先
振替番号
大阪6-305599
釜ヶ崎キリスト教協友会

人を人として！今年も協友会の活動にご支援を。

にも、同じ地域で日常的に出会う日雇労働者と共に野宿する労働者に対する偏見、差別意識も共存しているのも現実です。今年の夜回りには子ども達も参加し、野宿を強いられる労働者達とも接し、また釜ヶ崎のこと、日雇の仕組みなど労働者から直接話も聞きました。子ども達と大人の出会い、交わりを通して新しい関係が生まれました。子ども達は「夜まわり」体験の感想を、おっちゃん達と会って、話して、勉強して「自分の見る目が変わった」と率直に鋭く述べています。この子ども達の言葉は、私たち大人に一つの大きな提起をしているように思われてなりません。問題の大きさに余りにも無力な私達ではありますが、「生きる」という基本的な権利すら奪われている日雇労働者と共に戦い、釜ヶ崎解放に取り組みたいと思います。

釜ヶ崎の一年

春闘 釜ヶ崎日雇労働組合(以下釜日労と略)は、去(3月)年より五〇〇円アップの九〇〇〇円の賃金を勝ち取りました。一口に五〇〇円といっても一つ一つの飯場との厳しい交渉の末勝ちとれるもので、労働者団結の力がなければ賃上げどころか賃下げされるという状況です。春闘は一年中続きます。

人々の動き 協友会の新しい代表にカトリック信徒(4月57月)の中島文雄さん99が選ばれました。中島さんは協友会設立当時からメンバーで、最近まで労働福祉センターの食堂で働いていました。ふるさとの家では高阪さんが京都に異動となり、新しい責任者として藤原神父が来られました。又釜ヶ崎生活相談室には7月から志村満子さんが新しく加わりました。

コラールさん スベイン人修道女マリア・コラールさん 62 死去(5月) 5月3日、故国スベインにて死去された。コラールさんは一九七四年に釜ヶ崎に関わり始め労働者、子供達の中で活動を続けていた。特にお年寄りの人々と共に喜び、共に悲しみ、共に生きました。

四名不当逮捕 5月7日、地区内の喫茶店の息子が一人のに入った労働者を息子が殴り、騒ぎを知って集った釜日労組合員らが割って入りました。それが6月2日、暴力を止めに入った労働者と割って入った釜日労組合員が「傷害」で逮捕されました。悪いのはどちらかは誰が見ても明らかであり、警察の治安管理強化を象徴した事件です。4人の



・'87.8.2反天博フェスティバルの寸劇

逮捕者のうち3人は3ヶ月もの長期拘留を強いられました。

府庁前100時間 釜ハンスト(6月) 釜ハンスト(6月) 釜ハンスト(6月) 釜ハンスト(6月) 釜ハンスト(6月) 釜ハンスト(6月) 釜ハンスト(6月) 釜ハンスト(6月) 釜ハンスト(6月) 釜ハンスト(6月)

を拒否していた行政も労働者の団結の力に話し合いをせざるをえませんでした。この時期、野宿労働者は釜ヶ崎周辺だけで約一〇〇〇人でした。

天王寺博開催 「いのちいきいき、人、いきもの共存をめ

8月1日から100日間開催されました。しかしその中身は野宿している労働者を無理矢理追い出し、わずかな緑をひっこ抜き、その上200円もの入場料をポツクルというおおよそテーマからかけ離れたものです。これに対し、有志により「天王寺博に反対する実行委員会」が結成され反天博フェスティバル・ピラマキ等さまざまな活動が続けられました。

夏祭り・慰 8月12日から15日までの4日間、三角公園に豊祭(8月) おいて第16回夏祭りが行なわれました。綱引き、のど自慢など様々な催し物が行なわれ、厳しい状況の中に頑張っていくエネルギーを創るために人々は踊っていました。13日にはふるさとの家において慰霊祭が行なわれ、亡くなった多くの労働者達の供養が仲間達によりなされました。

労働者襲撃 一時ひそめていた野宿労働者に対する襲撃事件が日本橋近辺で続発しています。エアガンや拳銃、ビンを投げたりする悪質な行為を我々はゆるせません。

あなたも夜回りに参加してみませんか

釜ヶ崎問題は、単なる釜ヶ崎という0.62km²の限られた地域の問題ではありません。日本全体の問題、働く労働者全体の問題、日本人の生き方の問題です。ここにいて日本が、アジアもよく見えてきます。

多くの人、実際寒い冬の中野宿している労働者に触れて、ただ聞いていた時よりはるかに比較にならぬほど釜ヶ崎問題の大きさが実感として迫ってきたといえます。あなたも夜回りに参加して、自分の生き方、日本人の生き方をもう一度考えてみませんか、探ってみませんか。

越冬活動日程

- 前半 12月31日～1月10日 25日越冬突入集会、31日～3日第13回越冬ゼミ
- 後半 1月11日～2月末日

釜ヶ崎キリスト教協会、夜回り予定表 (1月11日～2月末日)

曜日	集合場所	時間	電話
月	ふるさとの家 (又は出会いの家)	出発 9時	06(641)8273 (633)0798
木	旅路の里	学習会 9時 出発 11時	06(641)7183
金	喜望の家	学習会 10時 出発 11時	06(632)1310
土	こどもの里	学習会 9時 出発 10時	06(647)1322



1987年～8年 活動目標

- ①人を大切にす ②協会会の日常活動の充実 ③大人と子どもが共に生きる

「国際居住年」！冬がきました

今年「国際居住年 International Year of Shelter for the Homeless」ですが、それも終りに近づいて12月となりました。政府の中に内閣総理大臣を本部長とした「国際居住年推進対策本部」が設置されましたが、盛り上らない一年でした。

「居住環境」をよくするために、釜ヶ崎では簡易宿泊所の近代ビル化がますます、拍車をかけています。三角公園の周りを地下鉄工事の進展と共にきれいになってまいりました。しかしその裏では今までのように安いドヤ賃では泊れなくなった日雇労働者が寝場所を求めてまよっています。釜ヶ崎周辺だけで毎晩五〇〇人から六〇〇人、大阪全域では二〇〇〇名近い労働者が野宿を強いられ、しかもやっとな見つけたビルの軒先や公園から更に追い出されようとしています。全ては「地域住民」の「生活環境」をよくするためです。

「ホームレス・ビル」もともと「国際居住年」とは「家なき人々」のために決められたものではなかったのでしょうか。そして失業して野宿を強いられる日雇労働者も地域住民の一人ではなかったのでしょうか。

今年の越冬も「人を人として」を目標に、生きるための闘争を展開してまいります。みなさんのご支援をお願いします。

一 カンパ目標 一千万円 二 毛布、食糧等の物資援助

①毛布、石鹸、越冬期間中、沢山の毛布が必要です。
②食糧品 お米、調味料、食用油、乾物、カンツメ

お肉 野菜、ラーメン
釜ヶ崎キリスト教協会

送先行 大阪府西成区北津守四一四四 晩光会気付
尚、援助物資はすぐ送って下さって結構です。



今年の越冬

釜ヶ崎では昨年秋以来、公共事業の拡大によって求人の上昇による野宿労働者の減少が見られます。しかし仕事が出来ない労働者（病弱、高齢、障害者）がまだ30人以上路上生活を余儀なくさせられています。しかも野宿労働者が釜ヶ崎地区内より周辺部に拡散しており、周辺部の釜ヶ崎化が見られます。これは、野宿労働者が、地域住民、警察、行政によって寝場所を追われ、寝場所を求めて拡散しているからです。にもかかわらず、大阪市の「あいりん対策」はあいかわらず、釜ヶ崎地区内だけに限られているのです。これを反映して、実際市内全体の行旅死亡人は、昨年度は200人を超えています。

私たちは、この大阪市の現実を、「家のない人に家を国際年一九八七年」をふまえ、十一月二十八日、大阪市長選の前に三名の市長候補に「大阪市内に野宿する人々への根本対策について」の公開質問状を出しました。いずれの候補者からも回答を得ましたが、その後の市長選に当選した西尾正也氏からの回答は、就労対策の推進を約束しましたが、福祉対策を労働者の勤労意欲の高揚とすり換え、具体的根本対策に乏しいものでした。

十二月に入って、第十八回釜ヶ崎越冬闘争実行委員会は釜ヶ崎キリスト教協会と共に大阪市内に要望書を出しました。その内容は、就労対策として、○大阪市自ら、公共事業による日雇使い捨て対策を改め、市独自の日雇労働対策（高齢者対策、アフレ期対策）を行うこと、越冬対策として、臨時宿泊所を二千名以上にも出すこと、○高齢者、病



三角公園では全国からよせられた衣類を労働者に（88.1.1）

弱者、障害者への長期保護体制に越冬対策を加えること、○臨泊受付を市内各区福祉事務所、○釜ヶ崎市内に常設宿泊所をつくり、新今宮小中学校を越冬に開放すること、○臨泊の施設と処遇の改善 ○警察権力との連

人を人として！今年も協友会の活動にご支援を。

協友会通信 1 1
1988年2月

釜ヶ崎キリスト教
協友会 代表 中島文雄

連絡先
大阪市西成区萩ノ茶屋2-8-9
株路の里気付
釜ヶ崎キリスト教協友会
TEL 06-641-7183

カンパ送り先
振替 大阪6-305599
釜ヶ崎キリスト教協友会

携をやること、○悪質精神病院への隔離収容入院をやること、(以下省略)でした。

十二月二十五日、第十八回釜ヶ崎越冬闘争は、機動隊に囲まれながら、三角公園での突入集会をもって始まりましたが、私たちの行政への要望は結局踏みにじられた結果に終わりました。臨泊入所の実数は、1300人の保護可能施設に751人(南港613人、自濯館144人)どまりでした。これは昨年比で実数の20名削減となっています。また人所却下理由も60才は若いからとされたり、仕事があるからという理由で正月早々臨泊を追い出されています。大阪市のこのような不当な切りつめ越冬対策を私たちは既成事実化させてはならないと思います。結局お正月三日間も、三角公園で約200人、センター前で約100人、その他の路上で150人以上が野宿せざるをえませんでした。

今年も寄せられた皆様からのカンパ、沢山の援助品は労働者への支援のために使わせていただきましたこと、多くのキリスト者が越冬闘争期間中、労働者とともに活動したことをお知らせいたします。

協友会のクリスマスいろいろ

釜ヶ崎は十二月一杯越冬の準備に追われて忙しい日々ですが、クリスマスにはキリスト教協友会はそれぞれに応わしい喜びの日を過ごしました。

十二月二十日(日) 釜ヶ崎キリスト教協友会は、二十五日の夜は越冬闘争突入日ですので二十日の午後六時から老人センター「ふるさとの家」で集会をいたしました。聖堂でエキヌメニカルな礼拝を行い、聖書のみことばをきき、その後は娯楽室で団らん、からあげやサンドイッチをほおぼりながら、こどもと大人がいっしょに歌ったりしてなごやかに一時でした。

十二月二十三日(水) 大阪市近郊にある阪奈病院には、釜ヶ崎の労働者が五百名近く入院しています。例年のように一人一人に石ケン、タオル、クッキーでクリスマスの喜びを配りました。大阪の堺市にある賢明女子学院の高二、高三の生徒が三十名参加し、食袋でクリスマス・キヤロルを合唱し、その後各階に分かれてアフレントを配りました。久しぶりにみる女子高生の顔に、いつまでも手を握ってはなさない老人もいました。

十二月二十四日(木) 夜七時からの「ふるさとの家」の聖堂での聖夜ミサで二名の労働者と二人の青年が洗礼を受けま

協友会の越冬が はじまりました

夜まわりで問題は解決するのですか？

冬の釜ヶ崎＝野宿して夜まわり活動といった考えのもとに、越冬に参加するのであれば、釜ヶ崎に向けられている様々な差別はわからないと思います。夜の釜ヶ崎だけでなく早朝4時頃から仕事を求めて労働福祉センターに集まって来る労働者の姿にもぜひ出会ってほしいものです。夜まわりは一つのきっかけです。夜まわりをしたからと言って、釜ヶ崎の状況そのものは決してなくならないのです。

越冬活動日程

1月11日～2月末日

2月7日(日)2:00 中間報告集会(ふるさとの家)

3月13日(日)2:00 総括集会(喜望の家)

釜ヶ崎キリスト教協友会夜回り表

(1月11日～2月末日)

曜日	集合場所	時 間	電 話
月	ふるさとの家	集合 11時45分	06(641)8273
木	旅路の里	集合 8時45分	06(641)7183
金	喜望の家	集合 10時	06(632)1310
土	こどもの里	集合 8時45分	06(647)1322

- 参加する場合は前以って集合場所に連絡して下さい。
- 時間は厳守して下さい。
- 車で参加する人は三角公園付近に駐車して下さい。



“ 夜廻りを通して釜ヶ崎をとりまく状況を考えたい ” 廻

本曜日 旅路の里

月曜日 ふるさとの家

今までは、9時から廻っていたのですが、野宿者の状況が一番よく把握出来る時間です。きだとの意見が出て、12時から廻ることになりました。身体の障害や疾患のために野宿を余儀なくされている労働者に一日も早く医療の救護を受けられるように手伝ったり、シスターたちによる生活相談も労働者にとって大きな励ましと支えです。

協友会の夜まわり

クリスマスの日からはじまった、第18回越冬闘争も1月11日解散し、その夜から2月末までの予定で協友会は越冬活動に入りました。あわれみの対象として野宿者に接するのではなく、またキリスト者の活動の場として釜ヶ崎をとらえることのないように、昨年と同じく四つの拠点それぞれの特徴を生かした夜廻りを行っています。

月曜日 こどもの家

十二月二十六日(出) 「山王こどもセンター」のクリスマス会。リーダーが一行に並んで聖書を中心に「救いの歴史」を朗読しました。こどもと大人が一体となって「ねむた地蔵とおきた地蔵」の劇はお地蔵さんが関西弁丸出して愉快でした。後に街中をキヤロリングしました。

十二月二十九日(火) 患者交流会のクリスマス会は、入佐さんの最初の著作「ねえちゃん、こまろちゃん」の出版記念をかねてうんすきを囲みました。日頃お世話になっている入佐さんに感謝のおもいをこめて一人一人が語りました。

十二月三十一日(水) 越冬ゼミナールが始まりました。十九名、三角公園で労働者と共に年を越しました。

1987～88年 活動目標

- ①人を大切にする ②協友会の日常活動の充実 ③大人と子どもが共に生きる

るだけ」の夜廻りから脱皮するためにも学習会と医療相談、入院された労働者の面会にも今まで以上に力を入れてきました。学習会では、寄せ場の構造、寄せ場を通してみる原発精神医療、天王寺博、アジアからの出稼ぎ労働者などの問題を皆で学んでいます。



越冬中でのこどもたちのもちつき (87.12.26)

余儀なく野宿している方の中には、治療、入院を必要としている人が多く、昨年以上の厳しい現状を再確認しました。野宿者と関わることの必要を感じ、通年昼間も日本橋の公園や高速度道路下を中心に廻り病院、施設に入れるよう福祉事務所などに働きかけています。学習会は、年間とおしての活動であるデイ・パトロールの報告や釜ヶ崎でのアルコール依存症の問題などを学びます。

土曜日 こどもの里

里では昨年同様2時からこども達が米を洗い、おにぎりやみそ汁を作りました。学習会は、学校で教えきれない日本史として戦前の釜ヶ崎の歴史、戦後、釜ヶ崎にきた炭鉱の人たち、そして現在、多くのアジアの人たちがなぜ日本の寄せ場で働くのかを子ども主体に学んでいます。

- 一 カンパ目標 一千万円
二 毛布等物資援助

毛布、石鹸、タオル。越冬期間中、沢山の毛布が必要

送り先 大阪市西成区北津守四一四一四四 睡光会気付
釜ヶ崎キリスト教協友会

尚、援助物資はすぐ送って下さって結構です。

アボジの身世打令

徐 貞 順

釜に献げるバラードを三月十三日の越冬総括集会で、ザ・イカ
イノバンドのみなさんが演奏してくれました。(表紙裏参照)

六歳の私にアボジの死は余りにも不可解でした。その日私はアボジの死出の旅路の仕たくに忙しく動き回るアジュメたちをみて、てっきりこれは楽しいランチにちがいないと思いきや、思ひこんだのです。だってその日に限って、今まで食べたことのないウドンが出前され、客などきたことのないバラック小屋に大ぜいの大人たちがやってきたからです。

そして私は死の意味も分からず、アボジの遺体の囲りをウキウキと飛びまわっていたのでした。そんなあつけない私の傍からいなくなったアボジの身世打令を唄うには、余りにも想い出が少なすぎるのです……。

今は子どもたちが見向きもしないコッペパンですが、いつも土方から地下足袋姿で帰ってくるアボジの手には一本のコッペパンがにぎられていました。現場で配られるコッペパンを食べずに私にもってきってくれるアボジの帰りを今か今かと待ちわびる私でした。アボジが現場で倒れる前の日、オモニと私

とアボジの三人で雨音をききながらカルタをしたんです。日雇いに雨は冷たくもありませんが、日雇いの子の私には暖かな雨でした。棺が釘で閉じられる時、別れ際に好きな花を入れなさいと言われ、あれもこれもと迷い兄に叱られながら、アボジの顔のまわりをいっばいの花で飾ってあげたのが最初で最後の親孝行になりました。

畳の上で死ぬことも、ましてや祖国のオンドルの上で死ぬこともできなかったアボジの遺体に現場の砂利は余りにも固く冷たかったのではないだろうか、長い間、留保し続けてきたアボジの死の意味を解釈しつづける不肖の子は、在日一世の日雇いのおっちゃんの子であることを、今やつと感謝できるようにになりました。

韓国では、民主化の為に学生や労働者たちが次々と自分の体にガソリンをかけている中、その死を悼み、同胞・民衆たちの手で学園葬、労働葬が営まれているというのに、誰か名も



知れず異国の地で朽ち果てていった在日のハラボジ、ハルモニたちの「在日葬」をしてくれないのだろうか。

このバラードを今も冷たい道路で寝ているすべてのおっちゃんたちに捧げたいと思います。

この歌を口ずさんでいると、私の知らないアボジの肉声はどこからともなく聞こえてくるような気がして仕様がな感じです。

在日大韓基督教義教会(大阪生野)

注 アボジ||父親 オモニ||母親 アジュメ

||おばさん チャンチ||宴会

若者通り



「旅路の里」は、大阪市西成区「あいらん地区」(釜ヶ崎一帯)のまん中にあり、ボランティア活動などをしている平リスト教の十一団体の事務所が置かれている。

▼野宿者は無事か

毎週木曜の夜、十時になるころ、ここにクリスチャンのほか、労働者や若者たちが集まってくる。「木曜夜回りの会の人たちだ。野宿している労働者が病気になるのではないか、けがはしていないか、と声をかけられる危険はないか、と町を晃回って行く。

旅路の人

約三十人のメンバーのリーダー格が「旅路」に住み込み、空調施設工事のアルバイトをしている藤田勇さん。二十六歳。独身。

ふる里は北海道。高校を出て、同郷社文学部のII部に選んだ。II部を選んだのは、経済的な問題ではなく、働いた方が社会がよく見えるだろうと思っただけからだ。

飾らぬ「釜ヶ崎」のとりこ



が、欠かさず参加するうちに、樹臨まで彼らを抱き入れることに、いつの間にか中心となっていた。いまは、夜回りが終わると、各グループから報告を受け、それを知らせ、た

夜回りから戻ったメンバーたち。藤田さんに野宿者の人数や様子を報告する。もう真夜中だ
＝大阪市西成区萩之茶屋2丁目の旅路の里で

週に一回夜回り

「記録を残す夜回り」とは、いっても、あいらん地区を一周に回るとか、自分の力ではどうも無理だろうし、長い年月かかると考えるから、だ。野宿者が目撃している、取手紙を集めて、働いているのに、浮浪者と呼ばれるのが我慢ならない。「行政が何処な手を打たず、

「行政が何処な手を打たず、

「将来は考えない、ほかにやりたいことが出てくれば、そちらの方へ向かう準備がしている。」「将来のことば考えないけど、東横のことでやりたい。北海道へ戻るのもいいねえ」と言っている。

「将来は考えない、ほかにやりたいことが出てくれば、そちらの方へ向かう準備がしている。」「将来のことば考えないけど、東横のことでやりたい。北海道へ戻るのもいいねえ」と言っている。

閉校3年、あいりん学園、

「子ども教室」に再生

大阪・西成区のおいりん地区（釜ヶ崎一帯）で、住民登録がないばかりに就学できなかった子どもが学んできた「あいりん学園」（新今宮小、中学校）が閉校してから三年たち、「西成子ども教室」として生まれ変わる

ことになった。「地元の運動で建てられた校舎を無駄にするな」と、同校の跡地利用を考える地元の人々が署名運動や市との交渉などを続けた結果で、将来は同地区の労働者が子どもと交流できる「生活センター」と、夢を膨らませている。

同校舎は四階建て。今回開放されたのは、一階の四部屋と体育館。それに校庭（約一千平方

米）。火一金曜日夕方二時～四時、土曜日の午後一六時、それに日曜や祝日、夏休みなどの長期休暇中は午前十時～午後六時。市が指導員四人と管理人一人を置き、絵画や工作などの指導もする。

新今宮小、中学校は三十七年、既設の市立秋之茶屋小と今宮中学校の分校として閉校。簡易宿泊所に住むなど家庭の事情で長期欠席している子どもたちが学んでいた。四十八年、現在地の西成区秋之茶屋一丁目に移転。五十九年三月、最後の三人が卒業したあと、何にも使われずそのまま残され、ほこりをかぶった状態になっていた。

大阪市教組南大阪支部などで、城住民・労働者の社会教育の場をつくっている「跡地利用を考える会」は閉校のあと①学童保育・子ども会活動の場②短期間子どもを保護できる宿泊施設③地区の子ども実態調査を実施

設置者らが毎朝、就労交渉をするが、これまでは多くて百五十台ほどだった業者らの車が、今は約二倍に増え、センター前の路上にあふれている。年末までにビルの完成を予定している東京の建設会社は「二十人はほしいが、五人しか集まらない」とこぼし、茨木市の下水道業者（あひは）は「九月までは、就労を断った人もいたのに、今はこちらから頭を下げて頼んでいる。毎

し、跡地利用の必要性を訴えてきた。その結果、六月二十九日の市との交渉で、幼児や小学生を対象に「子ども教室」として開放することが決まった。同会の竹之内善久事務局長は「とりあえず閉まっていた門を開けることができた。来春には、労働者が子どもに工作を教えるなど、大人と子どもが交流できる場になるように交渉を続けていきたい」と話している。

朝、四十人ほど雇つつもりで来るが、二、三十人集まったらいい方だ」と話す。

一方、同センターが八、九月に三百七十六事業所を対象に、期間就労の労働者の年齢制限を調べた。その結果、約三割の九十一事業所でとび職は四十歳以下、一般作業員は五十歳以下などの制限を設けていることがわかった。今、あいりん地区一帯の労働者約二万四千人は、約四五割が五十歳以上。人手不足で年齢制限は緩和されつつあるとはいふものの、高齢者の労働環境はまだまだ厳しく泉南市出身の労働者（あひは）は「人数合わせで現場までは行かせてはくれないが、千円の車賃だけで帰されることもある。冷え込んでくると野宿もしくくなるし」と不安を隠せない様子だ。



西成労働福祉センターの前に、まだ晴いうちからズラリと並ぶ建設業者らの車

大阪府西成区秋之茶屋一丁目

187-1/28

あいらん'活況

大阪市西成区にあいらん地区(釜ヶ崎一帯)の求人状況がこれまでにない好調ぶり、労働者への就労をおっせんしている西成労働福祉センターのまとめでは、今年九月までの六十二年度上半期の求人数は昨年度同期を約二割上回った。内需拡大を背景にした公共工事や建築業からの需要が中心で、伸び率は過去最高。遠く関東、東海地方からの求人も多く、「思うように人が集まらない」と嘆く業者も出るほどだが、一方で高齢者への求人は相変わらず低迷しており、「いびつな繁栄」を映し出す同地区の特徴は一向にぬぐわれていない、といえる。

内需策で潤い 高齢者は低迷

西成労働福祉センターには、二千人上回っている。今春四月から九月までの六カ月間に計八十七万七千余人の求人があった。労働者の就労には一日だけの「日雇い」と二百以上の「期間就労」の二種類あつて、このうち日雇い求人数は年度当初の四月から昨年度を毎月四千一二万四千上回った。一日当たりでも今月十八日に、これまでで最高だったこと三月十七日より六百三十二人多い五千九百七十八人の求人記録。期間求人数は今年度の公共事業が本格的に実施に移された六月から早くも昨年度をしのぐ勢いで、以来月当たりで五千一二万

建設会社大手五十社をみると、住宅やマンションなどの受注が今年度の上半期で昨年度より約二割増えている。また公共事業の前払い保証に携わる西日本建設業保証会社の話では、公共事業も上半期で昨年度より約六割伸び、これらが「労働市場」の活況をつくり出したとみられている。とくにビル建築に欠かせない鉄筋工の技術者は引っぱりで、春ごろからはこれまでほとんどなかった関東、東海からの求人も目立つてきた。

同センターでは、労働者と建

'87.12.23
5D19)

活況の影に結核

「あいりん」で急増

流入者多く高齢化影響

関西国際空港、国際化と緑の博覧会など大型プロジェクトの関連工事で、先月、史上最高の求人数を記録した大阪市西成区、あいりん地区の自由労働者に、結核患者が急増していることが、二十二日までの大阪市環境保健局の調査で明らかになった。あいりん地区の結核患者はこの数年間で半減していたが、今年は前年比で百人以上も増え、九年ぶりに五百人台に乗る勢い。

健康管理が十分でない労働者が、全国各地から流入しているのも原因の一つとみられ、事態を重視した大阪市は実態調査に乗り出した。

西成保健所の調査によると、今年、あいりん地区での結核発病者数は、厚生省に登録されただけで四百八十一人（十一月末現在）。このままでは五十三年の五百四十七人以来の五百人台になるとみられている。

あいりん地区の結核患者は、同保健所が統計を取り始めた四十七年の九百八十一人をピークに、年々減少。五十六年からは三百四十人、三十九十年で横ばい状態になっていた。

それでも昨年の場合、人口十万人当たりの発病率は一〇・四二・二で、全国の一六・四に比べ二十倍以上。このため、同保健所は結核患者の早期発見、早期療養を目指し、四十九年から月一回のレントゲン検診を実施。同保健所愛隣会館分室では療養相談指導を行っているが、レントゲン受診者の約一割が結核と診断されている。この数字から見ると、患者は登録数の四・五倍、約二千人もいると推定され、保



絶後を流る労働者が結核と診断され、あいりん地区—大阪市西成区の西成保健所愛隣会館分室

健所側は「伝染病でもあり、放置できない」と労働者に検診を呼びかける一方、発病者の経歴、職種や生活実態の調査に着手した。

あいりん地区は今年、関西国際空港などの大型プロジェクトの着工や政府の内閣府

策による道路建設、遺跡発掘作業などで求人が連日五千件を超え、九州、関東などから労働者が流入し、地区内の自由労働者は約二万九千人と三年前より二千人も増加。全国からの労働者流入のなかで結核患者も増え、発病者は四十、五十歳代に多い。これらの実態を踏まえ保健所は「労働者の高齢化の影響もあるが、発病は新規流入者に多いのではないか」と分析している。

異常事態といえる

大阪市環境保健局の八木芳樹医師が予防課長の話、異常事態といえるが、労働者に結核予防の意識が十分でなく、身体的な予防策がないのが現状だ。今後も労働者が増えているのは事実で、これ以上の患者を出さないためにも、実態調査を急ぎ、健康管理の重要性を訴えていきたい。

'87年度協友会 活動へのご支援 ありがとうございます います。

皆様方の変わらない支援を受けて、'87~'88年度の越冬闘争も終わることができました。皆様の力強い支援がなければ越冬闘争が完遂できなかったことは云うまでもありません。今年の冬は最初の内は暖かい日々が続いていましたのに2月の半ばからは一転して厳しい冬となってしまいました。犠牲者を出すまいと願いながらも、30数名の路上の犠牲者を出してしまいました。辛さと悲しみと悔みをかみしめながら追悼の祈りを共にお捧げいたしましょう。

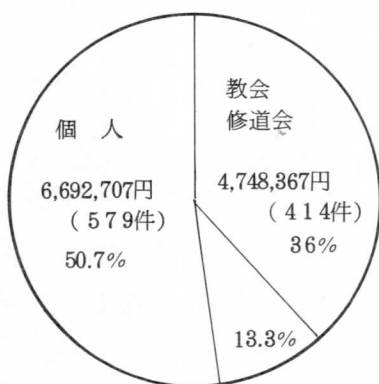
今年は仕事があって一般的には活気がありました。しかし野宿を強いられている老人、病弱、そして「障害」を持つ労働者にとっては益々厳しい冬でした。これからは年間を通

しての活動に入ってまいります。協友会活動の充実のためにも一層のご支援をお願いいたします。

カンパ支援

1987年4月～1988年3月

総計 1,063件 13,200,334円



学校、諸団体
1,759,260円(80件)

地域	種別	個人		教会、修道会		学校、諸団体	
		件数	%	件数	%	件数	%
大阪		135	23.3	85	21.0	16	20.0
近畿		123	21.2	113	28.0	33	41.25
中国		37	6.4	40	9.9	7	8.75
四国		18	3.1	21	5.2	5	6.25
九州、沖縄		65	11.2	77	19.1	10	12.5
東海		24	4.2	9	2.2	4	5.0
東京		62	10.7	33	8.2	2	2.5
関東		60	10.4	11	2.7	2	2.5
東北		22	3.8	6	1.5	1	1.25
北陸、信越		25	4.3	3	0.7		
北海道		8	1.4	6	1.5		
合計		579	100%	404	100%	80	100%